

シルバーウィークに要注意

1. 夏休みが終わり市場が活性化するなかでの「大型連休」

米国では 9 月 7 日（月）の「レイバー・デー」で夏休みが終わります。多くの市場参加者が休暇から戻り、11 月第 4 木曜日の「感謝祭」に向け奮闘することになります。目標達成組は「感謝祭」明けも年末までゆったりと過ごし、未達の人は「クリスマス」に向けてラストスパートに入ります。

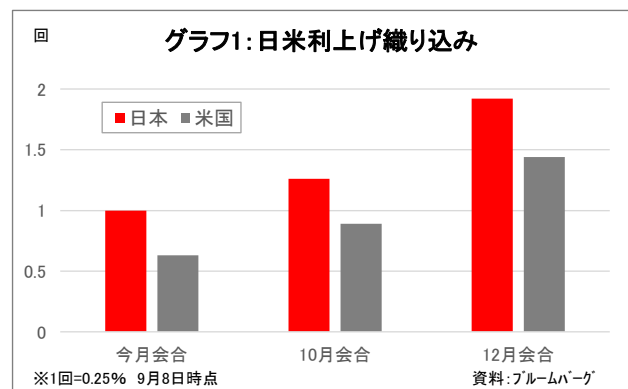
おりしもドル円為替は 7 月末の協調介入で円高に振れたものの 8 月末には 160 円台を回復、しかし今月に入り再び円高が加速と相場が大きく動き始めています。欧米長期金利は上昇を続け、日本の 10 年国債利回りも一時 3% 台に乗せました。株式市場は AI 関連銘柄を中心に激しく上下する展開が続いています。

ところが日本では 19 日から 5 連休、土日を除くと 21 日（月）から 23 日（水）まで 3 日連続で休場となります。当然ながら海外市場では取引が行われ、またその前後には多くの重要イベントが予定されています。気候がよくなるなかでの休日はありがたいですが、市場関係者はゆっくり休むというわけにはいかないかもしれません。日本の当局者は市場の急激な変動に備え、対応策を検討していることでしょう。

2. シルバーウィーク前後の重要イベント ～金融政策決定会合

米国は 15～16 日に金融政策決定会合（FOMC）を開催し、日本時間 17 日（木）早朝に結果を発表します。金融市場の利上げ織り込みは 6 割程度と利上げ、据え置きいずれもあり得るという状況で、11 日（金）に発表予定の消費者物価指数がカギを握るかもしれません。結果発表後にウォーシュ議長の記者会見が予定されています。トランプ大統領からあからさまな利下げ要求がなされるなか議長の発言に注目です。議長は持論としてフォワードガイダンス（今後の指針）は示さないとのことですが、市場参加者は何らかの手がかりを得ようとするでしょう。先物市場は年内の利上げを 1.5 回弱織り込んでいます。

18 日（金）の昼頃に日本銀行が結果を発表します。市場では 0.25% の利上げを完全に織り込んでおり、午後 3 時半ごろからの植田総裁の記者会見が焦点となりそうです。ただし株式市場には連休前の取引を終えたタイミングとなります。



3. シルバーウィーク前後の重要イベント ～政治関連

政治面でも数多くのイベントが予定されています。米国では「レイバー・デー」明けから11月3日投票の中間選挙に向けての選挙戦が本格稼働します。共和党は9～10日にテキサス州で党大会を開催します。通常、党大会は大統領選挙前に開催され、中間選挙前の開催は極めて異例です。下院では民主党が多数派を奪還する可能性が高く、上院も共和党の過半数確保が危うくなりつつあるとされ危機感が高まっているということでしょう。開催地のテキサス州は共和党の牙城とされますが、一部世論調査では民主党候補の支持率が上回っています。

自民党は連休前の16日に党役員人事、17日に内閣改造を行うと報じられています。米国サイドからは高市政権の「リフレ政策」により日本の金利が上昇し、米国に波及しているとの批判があります。人事で何らかのメッセージが発せられるか注目したいと思います。

高市首相は訪米し22日午後（日本時間23日午前）に国連総会の演説が予定されています。同日午前にはトランプ大統領が演説します。24日には習近平主席が訪米し米中首脳会談が予定されています。高市首相としては米中首脳会談の直前にトランプ大統領と接触し、対中政策についての認識を共有したいところです。ただし国連総会でトランプ大統領は国連を激しく批判するとみられます。一方で高市首相は2016年に当時の安倍首相が提唱した「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」という姿勢を崩すわけにはいきません。またトランプ政権による国際刑事裁判所（ICC）赤根所長への制裁という問題もあり難しい舵取りが求められます。

18日から20日にかけてロシアでは下院選挙の投票が行われます。改革派野党は立候補が認められずプーチン与党の勝利は確実です。ただし選挙後にプーチン大統領が新たな政策を発表するという見方もあります。ウクライナ侵攻が膠着状態となるなか、大規模増員や戦線の拡大等、地政学リスクが高まることも想定されます。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2026 年 7 月以降のレポート

- 7 月 1 日号 6 月の市場動向と 7 月の注目点
- 7 月 7 日号 2026 年度第 1 四半期の市場動向と今後の注目点
- 7 月 27 日号 AI、テクノロジー関連株価の動向について
- 7 月 31 日号 米国は予想通り政策金利を据え置き、そして円買い介入？
- 8 月 3 日号 7 月の市場動向と 8 月の注目点
- 8 月 5 日号 協調介入で円安は反転するのだろうか
- 8 月 13 日号 ウォーシュ議長の FRB 改革が始まった
- 8 月 31 日号 米国長期金利上昇の背景
- 9 月 1 日号 8 月の市場動向と 9 月の注目点

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第 404 号

一般社団法人資産運用業協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目 9 番 1 号
電話 03 - 4223 - 3145

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものではありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。